

山口県にクロモの3型 (地中塊茎型・腋性塊茎型・腋性殖芽型)

南 敦

筆者は山口県のクロモを少し調べているに過ぎないが、最近3種類を検出することが出来たのでその概略を報告する。

クロモについて多くの御親切な御教示と貴重な文献の御恵与を頂戴した角野康郎先生に深甚の謝意を表す。また、平清水八幡宮の池ほかに御案内を頂戴した塩見隆行先生に厚く御礼申しあげる。

(1) 地中塊茎型 (写真1)

1984年10月10日、山口市吉田郷の平清水八幡宮すぐ隣り、東側にある2つの溜池に自生のノハナショウブとヒメコウホネの観察に訪れた。これらの溜池にはジュンサイとクロモを生じていた。このクロモを柳井市古開作の山口県立柳井高等学校の水槽で栽培していた。このクロモは葉と茎が普通のものよりかなり細く、また、6輪生は少なく3~4輪生が多い。普通のクロモと異なって春は土中から発芽している。コカナダモと非常によく似ているが、葉がねじれることはない。今年(1990年)9月角野康郎先生に同定をお願いしたところ、「これはクロモです。九州を中心に越冬期に塊茎を作る型が広がっています。それが出来るかもしれませんが注意して下さい。」栽培しているクロモを早速注意して見た。10月初旬に土中から茎をぬきとってみると写真1のように茎の

先端が塊茎になっていた。この地中塊茎型クロモの特徴は次のとおりである。

輪葉の長さ10~12mm、幅0.8~1.5mm、葉緑には鋸歯がある。1節に3~5輪生。6輪生は少ない。茎の直径0.6~0.8mm、通常1.0mm以下。塊茎は土の中1~6cmの深さに生じる。塊茎は10月下旬において長さ6~8mm、幅2~4mm。塊茎は茎の基部(土につくところ)に近いところから生じた枝茎(芽)が土中にもぐり、これが短縮して太く硬くなり葉が小さく鱗片状になって重なったものである。地中塊茎型は12月20日現在、茎葉はまだ枯れていない。そして、この葉腋にも少数の塊茎をつけている(写真4)。しかし、これは次に述べる腋性塊茎型の塊茎よりはるかに少ない。地中塊茎型は県内では他に見つからない(写真1は地中に生じた塊茎。1990年10月26日撮す)。

(2) 腋性塊茎型 (写真2)

著者の勤務している山口県立柳井高等学校(柳井市古開作)の側溝(幅1~3m)には13年前までクロモが密生していた。その後、10年前からはほとんど全部オオカナダモに代わっていった。どうしたことか今春(1990年)オオカナダモが全く見られなくなり実験に困っていた。

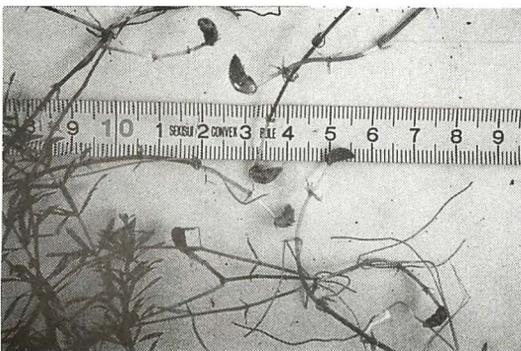


写真1: 地中塊茎型

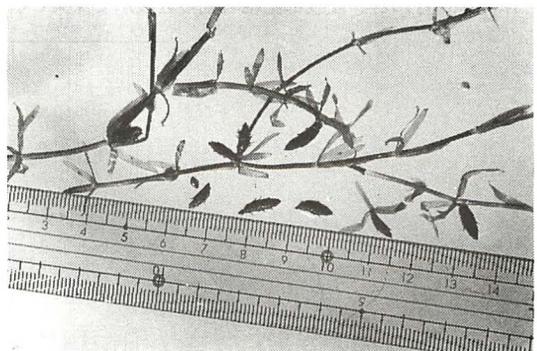


写真2: 腋性塊茎型

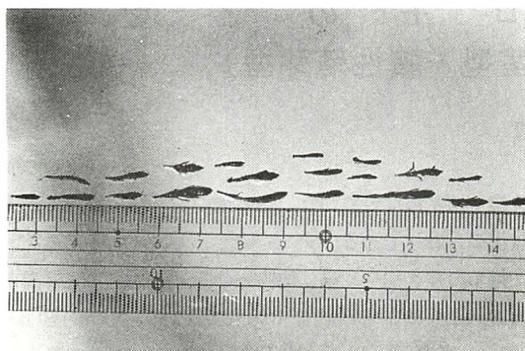


写真3：腋性殖芽型

9月になって側溝を見るとクロモが大群落を作っていた。このクロモを水槽で栽培している。このクロモは普通の大きさに11月10日に、茎の葉腋に長さ約7mm、幅約2~3mmの塊茎を作っていた。このクロモの特徴は次のとおりである。輪葉の長さ10~14mm、幅1.2~2.0mm、葉縁には鋸歯がある。1節に4~6輪生。5輪生が多い。茎の直径1.0~1.5mm。1.2mmが多い。水槽に育てたものでは、11月14日に、茎は数節ごとにばらばらになっていた。その茎の葉腋に塊茎を生じている。塊茎は茎(芽)が短縮して太くなり硬くなったものに葉が小さい鱗片となって重なっている。塊茎は長さ6~8mm、幅約2.0~3.0mm。全形や硬さは地中塊茎型とほとんど同じであるが、大きさはそれよりやや小さい。土中には生じていない。12月20日には茎葉が完全に枯れ、塊茎は茎から離れ水底に転がっていた(写真2は葉腋に生じた塊茎と葉腋からはずれた塊茎。1990年11月14日撮す)

(3) 腋性殖芽型(写真3)

1990年10月10日、佐波郡徳地町堀の佐波川で採集し水

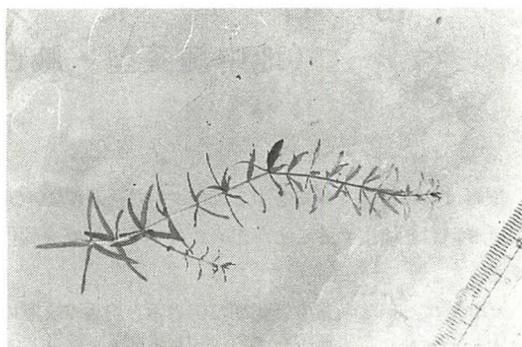


写真4：地中塊茎型から生じた腋性塊茎

槽で栽培している。夏期は茎葉がほとんど腋性塊茎型と同じであるが、10月下旬より葉腋に殖芽を生じる。この殖芽は茎の先端部の葉が開出しないで閉じていて「筆」のようになっていいる。茎(芽)が短縮して太くなることはないし硬くもない。単に小さい葉の集まったもので柔らかい。フサモなどの殖芽とよ似ている。11月下旬になると茎はばらばらに切れ、12月10日頃には茎葉は全く枯れ、殖芽は葉腋からはずれ落ち、殖芽のみが生きて水槽の底に横たわっている(写真3は葉腋から離れて落ちた「筆」状の殖芽。1990年12月10日撮す)。

参考文献

大滝末男・石戸忠、1980、日本水生植物図鑑 P189、北隆館。

角野康郎、1988、ミズオオバコとクロモの種内変異、福岡の植物(13): 1-4。

南敦、1985、山口県ではほ92年ぶりに見つかったヒメコウホネ、水草研究会報(20): 17。

(1990. 12. 21 記)